



ペンペン草



塩尻要約筆記グループ機関紙 69号 : 2023年11月

今年も残すところあと2ヶ月になりました。
2023年度のペンペン草の機関紙です。

コロナの影響で何年か開催を見送っていましたが、7月22日に行いました。SDGsについて教えていただきました。教えていただいたことをどのようにするのは一人一人を考え、実行していければと思います。そのあとの懇親会も久々ということもあってか、かなり盛り上がったと思います。合同学習会の感想をいただきましたので、紹介します。

～*～合同学習会に参加して～*～

パソコン班 S

「SDGs」とは?! 楽しく、やさしい解説をいただき、心が動かされる学習会でした。“持続可能な開発目標”と聞くと、遠く難しく感じてしまいましたが、日々の自らの行動・選択も、環境やエネルギーをはじめとした地球規模の危機につながっていて、SDGsへの取組みの一步になる。この自然豊かな環境で今生活できていることに感謝し、丁寧な暮らしの大切さ、社会を意識した行動の必要性を再認識させていただきました。要約筆記の活動も課題達成への一助となります。皆さんの多様なご意見を伺うこともでき、あらためて尊敬の念を深める貴重な機会となりました。ありがとうございました。





5月には、手書き班主催の筆談カフェを開催しました。

～＊～筆談カフェ開催～＊～

手書き班 H

5月17日、4年ぶりに、ペンペン草 3回目の筆談カフェを開催しました。

参加者は、難聴者とペンペン草以外の方 各5名、ペンペン草会員9名の総勢19名。

最初にSさんから、「聞こえない方、聞こえにくい方とのおしゃべりに、筆談を活用して楽しみましょう」との挨拶があり、筆談を始める前には書き方の説明がありました。

★筆談の工夫

- ①短くできる言葉を使う。
- ②「何々していただく」のような、丁寧な言葉は使わない。
- ③結論から書く。
- ④具体的に書く。
- ⑤相手が読みやすいように、いつもより少し大きめの字で書く。

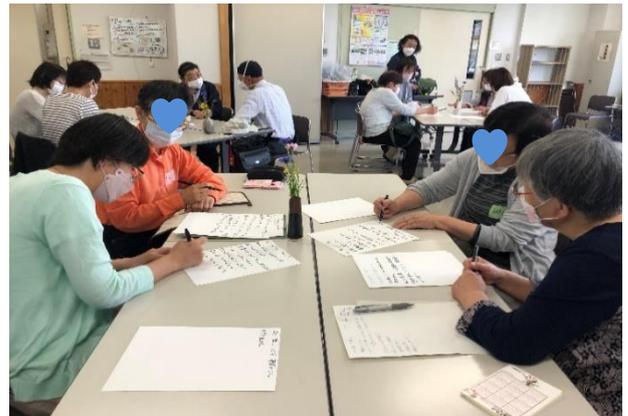
内容は、「自己紹介、お住まい、出身地、仕事、趣味など」を例示しましたが、皆さん、どんなお話をされたのでしょうか？

2回相手をチェンジして、筆談が続きましたが、どのテーブルも熱心にお話しされていて、盛り上がっている様子でした。

途中、飲み物とお菓子で一休みしながら、筆談でのおしゃべりが続きました。

テーブルには、ペンペン草会員が持ち寄ったお花も飾られ、皆さんに心地よいひとときを過ごしていただけたのではと思います。

多くの方から「楽しかった」と言っていただきました。



ペンペン草 筆談カフェ

この筆談カフェは、聴覚障害者情報センターとMGプレスに、取材していただきました。

聴覚障害者情報センターの取材によって、NPO法人 信州難聴者協会主催の「聞こえにくい人のためのコミュニケーション相談会」でも、ペンペン草がお手伝いをして筆談カフェを開催することになりました。このときも、参加者の皆さんが笑顔で盛り上がっていたのが印象的でした。

私も久々にお会いする難聴者と筆談でお話ができ、楽しいひとときを過ごすことができました。書いて伝えることが、もっともっと当たり前のこととして、広がっていくといいなと思います。



聞こえにくい人のためのコミュニケーション相談会



●リレーエッセイ

【お気に入りの物や場所などの紹介】

「ぼんぼん」の思い出

パソコン班 H

お気に入りの思い出がないとか選べないので、昔々の話をしたいと思います。

松本出身の方はご存知かと思いますが、お盆に行く「ぼんぼん」「青山様」という地区の子どもの行事がありました。(註:「松本ぼんぼん」とは断固別物です！ルーツではあるようですが)

ぼんぼんは女子、青山様は男子と決まっていました。私は三人姉妹で、青山様はたまに神輿とすれ違った時に垣間見るくらいで、よく知らないまま今に至っています。

お盆頃の何日間か、小学生の女子は、夜、浴衣を着、髪に紙で作った花を付け、独特のピンク色の提灯をもって集まり、提灯に火を灯して歌いながら地区の中を回りました。

♪ ぼんぼん とても きょうあすばかり あさってはおよめのしおれぐさ…(中略)

…なさけのおはな ほいほい

意味はわからず、ただ上級生ののを真似して歌っていました。

ググって見たら、地区によっては今もやっているようです。しかも歌詞が7番まであるようですが、私の地区は1番を繰り返していました。意味もわからなかったのに、正確に口承されているのはすごいことです。それと比べると、青山様は「青山様だ、わっしょいこらしょい」だけで(多分)、男子は楽でいいなと思いました。

低学年の頃は、提灯のろうそくが倒れて炎上してしまうというアクシデントが何度かあり、なかなかのショックでした。付き添いの大人がすかさず予備の提灯と取り換えてくれましたが、自分のみならず他の子の炎上でも、気分はチーンとなったっけ…。

そういえば先日、デ●シアで当時と同じあの独特の提灯が売られているのを見かけました。

親は大変だったと思いますが、半世紀以上たった今でも、こういう行事って、心に残っていますよね。

高校の頃、やたら明るい「松本ぼんぼん」が登場し、なんじゃこりゃ？と、最初は違和感しかなかったですが、今ではこちらが松本の夏の定番みたいになっていて、若い皆さんは、こちらを懐かしく思うのでしょうか。ということで、お気に入りの思い出をつづってみました。



松本市公式 HP より

・Hさんのお気に入りの思い出ということでお盆の行事の方の「ぼんぼん」を紹介いただきました。家族で松本ぼんぼんの話の時に元の行事ということで調べたところ、少子化の影響か今は女子は「ぼんぼん」、男子は「青山様」という区別がなくなっているみたいです。伝統行事の継承は難しいですね。



新会員紹介

今年度ペンペン草に、手書き班に、Fさん、Sさん、Mさん、パソコン班に、Nさんの4名が入会されました。仲間が大勢増えてうれしいです。

新会員の方々から自己紹介文をいただきました。



手書き班 F

初めまして、今年度ペンペン草に入会させて頂きました F です。

私は、30年くらい前から市内のフィットネスクラブへ通っています。きっかけは腰痛が中学時代から酷く、整骨院の先生に「プールへ通ってみればよいよ」と勧められたからです。

その頃塩尻にもフィットネスクラブができたので、整骨院の先生に連れて行ってもらい、通い始めました。フィットネスに通い始めた頃は全く泳げず、25mプールの真ん中のラインすら越えられなかったため、水中ウォーキングを1時間くらいしていました。今は多少泳げるようになりました。(笑)

以前は週に5日通っていましたが、今は月に5~6回通う程度になってしまいました。

手話や要約筆記に興味をもったのは、そのプールで週1回会う、ろう者の方(Nさん)との出会いでした。その方とは「やあ！バイバイ」だけの挨拶を20年くらいしていましたが、何かコミュニケーションを取れないかなと思っていました。

「プールの中だと字も書けないな~」「どうすればもっと仲良くなれるのかな?」と常に思っていたときに、手話「指文字」があることを知りました。手話を学習したいと思い、市の広報で知り社会福祉協議会の講座「手話奉仕員養成講座」(2013年と2014年度)を受講し、「こんばんは、今日は暑いね」「水泳教室頑張ってる」といった会話ができるようになりました。

今も、Nさんにプールで会うのを楽しみにしています。そして互いに水泳を頑張っています。

その頃だと思えます。レザンホールである映画の上映会があり、見に行った際にスクリーンに字を映しているのを見て、「こんな方法の通訳もあるの?」と知りました。その後、社会福祉協議会主催の「要約筆記講座 手書きコース」と「要約筆記講座 パソコンコース」を各2回ずつ申込み、受講させて頂きました。

ペンペン草に入れば、「字の練習とか、字の指導もしてもらえるのかな?」と思い、昨年の春の要約筆記講座を再度受講し、手書きコースの例会へ見学体験に伺い、入会をしたい旨を会長さんにお伝えして、入会をさせて頂きました。

字は汚いし、誤字や脱字が多く皆様にご指導を頂くことが多々あるかと思いますが、宜しくお願ひ致します。

ペンペン草の例会の欠席が多くなり申し訳ありません。できるだけ時間をつくり参加したいと思っています。これからも宜しくお願ひします。



手書き班 S

4月から手書き班に参加させていただいております。

松本市在住です。

昨年度まで、県の要約筆記者養成講座を受講していました。きっかけは、友人から要約筆記を教えてもらったとき、以前行った言語通訳に共通するところがあり、学んだことが別のところで役に立つならば、と思ったからです。それまで要約筆記に触れたことがなく、受講して初めて難しさと奥深さを知ると共に必要性を理解しました。

もっと技術を向上させたい、もっと難聴者と交流したい理解したいと思い、ペンペン草に入れていただきました。

気持ちは前のめりですが、まだ手のかかる双子がおり、思うように進まないのが現状です。細く長く続けていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



手書き班 M

今年4月から、入会をさせていただきました。私は、諏訪に住んでいます。

私が要約筆記を初めて知ったのは、たまたま SNS で流れてきた、長野県の要約筆記者養成講座の受講を促す広告でした。私の周りに聞こえに不自由を感じている人がいたわけでも、福祉関係の仕事をしているわけでもないのですが、どうにも気になり、文字を書くことが嫌いではなかったこともあり、誰かのお役に立てれば・・・くらいの気持ちで受講することにしました。

講座では、耳の構造から始まり、日本語、社会福祉、法律や歴史、倫理的な部分など、幅広い知識について学習。さらに、要約すること、文字を書くということの難しさを痛感しました。また、音のない世界を想像してみたり、もし、こんな時にコミュニケーションがとれなかったら・・・と想像し、要約筆記の必要性もどんどん感じました。

私が、当たり前のように日々、人と接して暮らしていけるのは、コミュニケーションを通して、人とつながっていただけるからだと思います。

コミュニケーションに不自由を感じている人たちが、少しでも毎日を、不自由を感じることなく、当たり前楽しく暮らしていられるように、要約筆記をもっと多くの方に知ってもらいたいし、私自身もお役に立ちたいと思っています。

まだまだ、要約筆記に出会ってから日も浅いですが、こちらで学習させていただきながら、日々頑張っていこうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



パソコン班 N

令和3、4年度の要約筆記者養成講座を修了し、6月からペンペン草に入会させて頂きました野村です。どうぞ、宜しくお願いします。

要約筆記は妻が手話通訳を行っている関係で知り、妻の勧めもあって養成講座を受講しました。もともと、パソコンいじりは好きでタイピングにも少し自信がありましたし、子育てや仕事が一段落した頃でした。なにより、好きなことを活かして誰かのためになれたらいいなと考え、挑戦してみることにしました。

実際に要約筆記をやってみると、文章の要約が難しく話に追いついて入力することがどれほど大変かを実感しました。自信のあったタイピングもそれほど早いわけではなく、もともと理系で国語力が乏しい私にとっては、かなりハードルが高い技術でした。さらに、年齢も60歳に近くなり、記憶力、特に短期記憶の衰えを感じるが多くなり、続けられるだろうかと不安になりました。このことを妻に言ったら、「何を言っているの、だから要約筆記をやってボケ防止をするのよ」と慰められたような、突き放されたような答えが返ってきました。それを聞いて、少し開き直って誰かのためだけでなく、まず自分自身のためにも続けてみようと考えるようにしました。

まだ、現場で要約筆記ができるレベルには遠くおよばないですが、それでも訓練を続けていると少しは上達している気がします。少なくともタイピング速度は確実に早くなりました。要約技術も訓練を続けていけば現場に出られるレベルになると信じて練習しています。

今、新たな環境を経験できること、そこで新たな仲間ができることに少しわくわくしています。早く、皆さんのお役に立てるように頑張ります。

《編集後記》

コロナも少し落ち着きを見せ始め、何年かぶりの合同学習会が行われました。

また、筆談カフェも久々に行われたとのことであるいろいろなことがコロナ前の状況に戻つつある中、機関紙も年度途中での発行となりました。

しかしながら、コロナも再流行しているといわれており、またインフルエンザも流行しているといわれています。皆様も体調管理にはじゅうぶんにお気をつけください。(パソコン班 K)